

Y20a 天文台活動と社会の関係 – すばる望遠鏡の見学プログラムについて

林 左絵子 (国立天文台) 国立天文台ハワイ観測所広報室

国立天文台ハワイ観測所では、日本国内・地元・国際的に説明責任を果たすべく、すばる望遠鏡からの情報発信・施設見学対応・アウトリーチ活動に努めている。その中で施設見学は、望遠鏡の様子やそこでの職員の働きを直接視察できることから、訪問者が現実的な理解を得る上できわめて重要な位置を占める。一方では、すばる望遠鏡の立地条件から、地元の事情に深い配慮が必要であり、環境保全および文化的・社会的な特殊性にかんがみて慎重にプログラムを進めなければならない。本発表では、施設見学プログラムの実施統計をもとに、地元での影響・反響を述べる。

なお、マウナケア山頂地域で望遠鏡を運用する組織の中で、関係者などではなくとも施設見学の機会を提供しているのはすばる望遠鏡だけである。このため地球の反対側からわざわざ訪問してくるケースもある。もちろんこれはハワイがそもそも観光地・保養地であることにもよるが、似たような条件の島々の中で州都からもっとも離れたハワイ島を選ぶのは、すばる望遠鏡見学のためという訪問者が存在するわけである。珍しい施設を訪問したい、つまり必ずしも天文学そのものに関心があるとは限らない層にも、国際的な波及効果が出ている。

日本国内での支持に加えてこの2つのこと – いわゆる研究業界を超えて地元社会での受容と国際的な認知度を今後も継続できるよう、施設見学対応に工夫を重ねていかななければならない。外国に立地している研究施設として長期の存続を図るためである。